

研修報告

ゼミ研修「マカオ視察」報告

巨大 IR 施設訪問を中心に

橋本 佳典*

Report on Student Study Tour of “Survey in Macau” : One of the World’s Largest Integrated Resorts

Yoshinori Hashimoto

1. マカオのカジノについて

1.1 はじめに

2019 年 9 月 17 日（火）から 20 日（金）まで、3 泊 4 日で橋本佳典ゼミ 3 年生 17 名が参加し、香港・マカオにおいて研修旅行を実施した。2017 年、2018 年に続き香港に滞在し、各所を視察した研修であった。研修の目的は、第一にカジノ売上げ世界一のマカオにおける IR (Integrated Resort: 統合型リゾート) 施設を見学すること、第二に世界有数のハブ都市香港で都市、空港、港のハブ機能を視察し、都市競争力を高めるためのハブ機能を学ぶこと、第三に様々な英語コミュニケーションの場面に接し、英語学習意欲の喚起を図ることであった。

筆者自身は 2010 年までマカオを 20 回ほど訪問し、マカオがカジノ売上げ世界一となり、巨大なカジノが続々と建設されている姿は目にしていたが、ここ 10 年程で更にどのように変貌しているのかを自身の目で確かめることも目的の一つであった。一方、参加学生は全員マカオへの訪問が初めてであった。

日帰りのマカオ訪問で視察先は限られたが、巨大な IR 施設を特別に見学できたことは貴重な経験となった。尚、香港視察の内容は『東海大学紀要 観光学部』第 9 号（2019 年）に報告した内容と概ね同様であり、本紀要においてはマカオでの IR 視察を中心に報告する。

1.2 マカオの概要

最初に、マカオの概要を示したい。マカオの正式名称は中華人民共和国マカオ特別行政区であり、面積は 30.5 ㎢で東京都世田谷区の約半分である。人口は 65.3 万人（2017 年末）、公用語は中

* 東海大学観光学部観光学科教授
投稿日 2019 年 11 月 26 日 受理日 2020 年 1 月 15 日

国語とポルトガル語であるが、日常会話は香港と同様に広東語が広く使われている。香港は 1997 年に中国へ返還されたが、マカオは 1999 年に中国へ返還され、以後香港と同様の一国二制度のもと、観光とカジノ産業を中心に発展してきている¹⁾。

マカオは珠江デルタ河口の左岸にあり、中国南部広東省珠海と接するマカオ半島、及び 3 本の橋で結ばれたコタイ地区からなっている。マカオ半島にある 22 か所の歴史的・宗教的建築物と 8 つの広場はマカオ歴史地区として世界文化遺産に登録されている。カジノはマカオ半島とコタイ地区に 39 か所ある。

2017 年マカオの国内総生産 (GDP) は 498 億 USD (約 5 兆円)、一人当たり GDP は世界第 3 位、一人当たり税収は世界第 1 位である²⁾。カジノ産業が GDP の約 5 割、税収の 8 割を占め、非常に偏った産業構造にある。マカオ政府は 2019 年、住民一人につき約 14 万円の給付金を支払う予定で³⁾、医療費、教育費も無料である。カジノ産業の好不調がマカオの経済全体を左右していると言っても過言ではない⁴⁾。

在香港日本総領事館 (マカオも管轄) のデータによると、在留邦人 523 名 (2017 年 10 月現在)、在マカオ日系企業は日系メーカー 2 社、大手旅行代理店 2 社の他、観光、日本食レストランなどの中小の日系サービス事業者が活動している。澳門 (マカオ) 日本人会、澳門日本商工会が活動している。日本人学校はない。日本からマカオの旅行者数は 32.9 万人 (2017 年)、マカオから日本へは 11.5 万人 (同)、直行便はマカオ航空が成田 (週 14 便)、関西 (週 7 便、2019 年 12 月からは週 14 便)、福岡 (週 4 便) とマカオを結んでいるが⁵⁾、以前から香港経由での高速船や 2018 年 10 月開通した香港マカオ間連絡橋 (詳細は後述) を使ったマカオ訪問が主流となっている。



図 1 珠江デルタ地図 (Google Map)



図 2 マカオ地図 (Google Map)

1.2.1 世界一のカジノシティ

マカオにおけるカジノ産業は、ポルトガル統治時代からカジノ王と言われるスタンレー・ホーの経営する STDM (マカオ旅行娯楽会社) が独占的に免許を得ていたが、2002 年アメリカ資本のサンズ・マカオがオープンして以降急激に成長してきた。香港系のギャラクシー・カジノ、アメリカ系のウイン・リゾーツが参入し、2006 年にはカジノの売上げが約 70 億ドルに達し、ラスベガスを超え、世界最大のカジノシティとなった。2007 年にはザ・ベネチアン・マカオ、2011 年にはギャラクシー・マカオがオープンした。マカオでは 6 グループにカジノ免許が出され、カジノ場は 39

か所となり、カジノ産業が GDP の半分を占めている。中でもコタイ地区にあるザ・ベネチアン・マカオとギャラクシー・マカオは IR を前面に押し出した開発を行っている。

マカオへの訪問客は 2017 年 3,260 万人であるが、中国本土から 2,000 万人超と約 7 割を占め⁹⁾、観光客の多国籍化と産業の多様化が課題となっている。

1.2.2 中国の政策の影響

1997 年のアジア金融危機、2003 年の香港を中心に広がった SARS により香港・マカオ経済は打撃を受けたが、中国政府は香港・マカオの経済的支援策として中国国民の香港・マカオ訪問の条件を大幅に緩和し、中国人観光客が急増した。マカオのカジノの入場者は中国人が中心であり、チャイナマネーによってマカオは潤ってきたが、2012 年に始まった習近平国家主席による反腐敗運動「儉約令」により、中国人客を中心としたカジノ売上げに急ブレーキがかかり、マカオの GDP は 2014 年前年比 1.2%減、2015 年 21.6%減、2016 年 0.9%減と大打撃を受けた。

このような状況を受け、マカオ政府による緊急対応や、カジノ運営会社が IR や家族向け娯楽施設の充実を図るなどカジノ売上げ以外の強化に取り組んできている。儉約令の影響が和らいできた昨今はカジノ収入や GDP も回復基調になっている。いずれにせよマカオ経済及びカジノ産業は中国本土の政策や経済状況に大きく影響を受け続けていくであろう⁷⁾。

1.2.3 カジノから IR へ

カジノ収入に大きく依存する事業構造からカジノ以外の施設を強化する先駆けは、サンズによる 2007 年のザ・ベネチアン・マカオのオープンである。筆者もオープン当初に視察したことがあるが、館内に運河をひきゴンドラを浮かべイタリアの水の都ベネチアの雰囲気を演出している。特に大規模なショッピングエリア、15,000 人収容のアリーナ、75,000 m²の展示会場などを当初から設け、カジノ以外の多様な層の集客を目指してきた。

カジノ以外のエンターテインメント施設を充実させる戦略はカジノの本場ラスベガスで早くから取られてきた。中條（2007）によると、2006 年ラスベガスをギャンブルだけを目的として訪れている人は全体の 11%であり、大半がギャンブルだけでなく、観光、ショッピング、エンターテインメントなど複合的な目的で訪れている⁸⁾。

また、ハイランド（2019）は、顧客の嗜好の変化に伴って、ラスベガス全体の収入構成比も変わり、カジノ収入が 30~35%、非カジノ収入は 65~70%と、ホテルの巨大化もあり客室収入、飲食業、エンターテインメント業、小売業の収入が拡大している、と述べている⁹⁾。

渋谷（2019）はシンガポールのマリナー・ベイ・サンズを例にカジノが延べ床面積全体に占める割合は 3%弱であり、シンガポールのもう一つの IR であるリゾート・ワールド・セントーサもカジノの面積は全体の 4%にとどまっており、IR を訪ねる人たちの多くはリゾートを楽しむ観光客や、展示会や国際会議に参加するビジネスパーソンであると強調している¹⁰⁾。いかに統合的、総合的なエンターテインメント施設とするかが IR にとっての生命線であると言えよう¹¹⁾。

2. 研修の内容

2.1 研修の行程

研修の行程は表 1 の通りである。

表 1 行程表

日次	スケジュール	宿泊
9 月 17 日 (火) 1 日目	香港航空 611 便 成田 9:30-香港 13:30 着後市内へ、途中香港港コンテナターミナルを車窓見学 夕刻 ANA 香港支店訪問、レクチャー	ザ・シティビュー
9 月 18 日 (水) 2 日目	AM 香港出境、マカオ入境 マカオ歴史地区視察 PM ギャラクシー・マカオ視察 マカオ出境、香港入境	ザ・シティビュー
9 月 19 日 (木) 3 日目	AM ANA 香港空港所訪問 レクチャー 香港空港キャセイ航空貨物ターミナル (Cathay Pacific Cargo Terminal) 視察	ザ・シティビュー
9 月 20 日 (金) 4 日目	香港航空 610 便 香港 15:30-成田 20:55	

2.2 事前調査

今研修は夏季休暇期間中に参加希望者を募って行う研修であったが、目的意識をもって研修に参加すべく、表 2 に示すように 10 グループに分け事前調査、ゼミ内で発表を行った。

表 2 事前調査表

グループ	テーマ	調査項目	ポイント
1	香港 1	歴史、政治、経済	ハブ都市、一国二制度
2	香港 2	自由、民主	逃亡犯条例
3	香港 3	生活、観光	訪日旅行
4	香港 4	航空、空港	旅客、貨物
5	香港 5	海運、港	中継港
6	香港 6	鉄道、駅	空港線、直通列車
7	マカオ 1	歴史、政治、経済	一国二制度
8	マカオ 2	観光、交通	世界遺産
9	マカオ 3	カジノ、IR	中国人客
10	研修旅行	ホテル、アクセス	地図活用

事前調査の内容において深度という点では不足も見られたが、学生が現地でそれぞれのテーマを深掘りしていくこととした。事前の学習により香港及びマカオの特性やハブ機能、IR について頭に入れて研修に臨んだ。

2.3 ギャラクシー・マカオ視察

マカオ最大規模の IR であり、同時に世界一の規模となったギャラクシー・マカオについて、筆者の香港人の知人の紹介で特別に視察する機会を得て、広報担当者 3 名のアテンド付きで視察することができた。

2.3.1 ギャラクシー・マカオの概要

ギャラクシー・マカオは、「ワールドクラス、アジアのおもてなし」をサービス哲学の基本とし、2019 年第 12 回インターナショナル・ゲーミング・アワードで 3 年連続「ベスト・インテグレートッド・リゾート・オブ・ザ・イヤー」に選出された。2021 年に拡張工事が完成すると、総面積は 200 万平方メートル以上となり世界最大級の IR 施設となる。

経営は香港資本のギャラクシー・エンターテインメント・グループ（以下 GEG）である。GEG は香港ハンセン指数銘柄となっており、また日本経済新聞社がアジアの有力企業約 300 社を選んだ「日経アジア 300 指数」銘柄に指定されている。

2011 年 5 月、GEG は 165 億香港ドル（約 2,300 億円）をかけギャラクシー・マカオの第 1 期を開業した。2015 年第 2 期として 110 万㎡に拡張し、430 億香港ドル（約 6,000 億円）を投資している。総工費は約 600 億香港ドル（約 8,400 億円）である。

ホテルはパンヤンツリー・ホテル&リゾート、オークラ・ホテル&リゾート、ギャラクシー・ホテル、リッツカールトン・マカオ、JW マリオット・マカオ、ブロードウェイ・ホテルと 6 つのワールドクラスのホテル、約 4,000 室からなる。飲食施設は 120 以上、ショッピング店舗数は 200 以上、シネマコンプレックスなどがある。また、世界最長の 575m の流れるプールや世界最大の造波プールほか数々のプールや人工砂浜を備えている¹²⁾。

2.3.2 視察行程

ギャラクシー・マカオの視察行程は以下の通りである。尚、カジノは施設中央エリアにあるが、マカオの法律で 21 歳未満は入場不可であり、参加学生の半数が 20 歳のため見学はできなかったが、数か所のカジノ出入口から中の様子は垣間見ることはできた。

表 3 ギャラクシー・マカオ訪問行程表¹³⁾

見学順	見学先
1	13:30 視察開始 ダイヤモンドロビー（メインロビー）内大型噴水、大型模型にて施設全体説明
2	西プロムナード（レストラン街）
3	ホテルオークラ・マカオ インペリアルスイートルーム
4	パンヤンツリー・ホテル内スパ
5	グランド・リゾート・デッキ（巨大プール群と人工砂浜）
6	ギャラクシー・ホテル内ウイスキーバー、イタリアンレストラン
7	エンターテインメント施設（シネマコンプレックス、フードコート）
8	ライフスタイルリテールエリア（ショッピング街）
9	リッツカールトン・マカオ内バー、チャイニーズレストラン
10	同スイートルーム、第3期、4期建設現場俯瞰
11	プロムナード（レストラン街）
12	ブロードウェイ・ホテル特別展示（ハローキティ）、3000人収容劇場
13	ブロードウェイ屋台街 15:30 視察終了



写真 1 ギャラクシー・マカオ全景（学生撮影）

2.3.3 視察内容

ギャラクシー・マカオは、ホテル 6 棟が中央部を取り囲むように聳え立っており、主に上層階は客室、低層部はレストランやエンターテインメント施設が並び回遊できるようになっている。中央

部は地上階にカジノ、その屋上に当たるところに数々のプールや人工砂浜が配置されている。繋がった建物内の回遊できる距離は建物の面積からして 1km 以上はあると思われる。

最初に見学したのはダイヤモンドロビー（正面ロビー）中央にある噴水ショーで、20 分間隔に高さ 10 メートルぐらいまで噴水がせり上がっていく。ロビー内には 5 メートル四方の施設全体の模型が置かれており、施設の規模感が伝わってきた。

中央部屋上部分にはグランド・リゾート・デッキと呼ばれる東京ドーム約 2 個分、約 7 万 5 千 m^2 の広さのプール施設がある。流れるプールとしては世界最長 575m のスカイトップ・アクアティック・アドベンチャー・リバーライド、世界最大の造波プールであるスカイトップ・ウェーブ・プールほか様々なプールや、150m の白い人口砂浜などがあり、トロピカルリゾートの雰囲気を出し、子どもや女性など、年齢や性別に関係なく楽しめる施設となっている。実際多くの家族連れが水着で楽しんでいる姿を目にした。家族を含めた施設内への囲い込み戦略である。

プロムナードと呼ばれるショッピングモールには 200 店舗以上の店が並び、高級ブランド店、高級時計店、人気ブランド店が揃っている。また、ライフスタイルリテールエリアと呼ばれるエリアには生活用品の店をはじめ、様々な店が並んでいる。レストランは 120 以上あり、中国料理、日本料理、イタリアン、フレンチなどの高級レストランからカジュアルなラーメン店やファーストフード店、またテイクアウト店、フードコート、24 時間営業の店など様々な店が並ぶ。ワインバーやウイスキーバーの他、スイーツ店やベーカリーなど女性を意識した店も多い。見学したギャラクシー・ホテルのイタリアンレストランはワインセラーの充実はもとより、全面窓の温室のような大型個室も備わっている。リッツカールトン内のチャイニーズレストランにも直径 10 メートル程の大きな円卓に一度に 30 名ほどが着席できる個室がある。

ホテルの客室はホテルオークラ・マカオのインペリアルスイートとリッツカールトン・マカオのカールトンスイートを見学した。眺望がよく、高級感が溢れている。カールトンスイートからは第 3 期、第 4 期建設現場が見下ろせた。2021 年上期に開業予定の第 3 期として、37,200 m^2 の MICE スペース（ギャラクシー・コンベンションセンター）、46,500 m^2 ・16,000 人収容可能な多目的アリーナ（ギャラクシー・アリーナ）、700 室のホテルを要する施設が建築中である¹⁴⁾。「アジアでも最も象徴的かつ最新鋭の総合 MICE 会場」を目指している¹⁵⁾。これによって名実ともに IR としての施設が完成することになる。また第 4 期として約 4,500 室のホテルが更に計画されている。

ブロードウェイ・マカオはギャラクシー・マカオに隣接しており、2015 年 5 月にオープンした 320 室のブロードウェイ・ホテル、3,000 人収容のブロードウェイ・シアターや屋台スタイルのストリート・マーケットなど 40 以上の飲食店がある。全体的にはギャラクシー・マカオの高級感とは異なりカジュアルなエリアとなっている。期間限定展示施設では「ハローキティワールド（特別展示）」が行われていて、子どもやファミリーをターゲットとした戦略である。

広報担当者にヒアリングしたところによると、来場者は 1 日に平日 8 万人、週末は 10 万人、国・地域別では中国本土から 70%、日本から 5%、欧米から 5%、その他香港・台湾・韓国など 20% とのことである。実際目にした客層は中国系と思われる人々が大半であった。このような中国本土からの客への偏りに対して、日本からの観光客も含めカジノ以外での集客を目指しているとのことであった。

広報担当者はギャンブル中毒防止対策として従業員教育の徹底を強調していた。また広報活動にも力を入れているとのことであった。実際に、ギャラクシー・マカオのホームページを見ると IR

活動に力を入れていることがよくわかる。地域社会への貢献や CSR 活動、環境保護活動などである。また、責任あるゲーミング活動（Responsible Gaming）として、従業員に対するゲーミング教育の徹底、依存症対策、地域との連携、広報活動に力を入れている¹⁶⁾。ゲーミングへの入場はマカオ特別行政区政府により、21 歳未満の人がマカオのいかなるゲーミング施設（カジノ）に入場することもゲーミングに参加することも禁じられているが、それが徹底しており、今回の学生訪問に際しても生年月日入り名簿の提出を求められ、半数が 21 歳未満だったため当然入場は認められなかった。

ホテルは 6 つあり、米系 2 軒、地場系 2 軒、日系 1 軒、タイ系 1 軒と分散しているが、様々なニーズに対応できるようバラエティーあるホテルを誘致してきたと思われる。

第 1 期、第 2 期段階の現在は展示スペースやアリーナが整備されておらず、IR というより、カジノ＆リゾートと称するのが妥当かもしれない。しかし、2021 年のアリーナや MICE 施設の完成で名実ともに世界最大級の IR 施設となる。第 4 期までの完成後は IR 施設成功のための一大エンターテインメント施設を作り上げ、カジノはその一部という狙いのように見える。

ギャラクシー・マカオのフランシス・レイ副会長へのインタビュー記事では、世界一の規模にまで成功した秘訣について「男性中心のカジノを家族向けに、そしてマカオを陽光のあふれるリゾート地に発展させたのはわれわれです」と誇っている。そして「最大のお客様は中国大陆からで、恐ろしく変わりやすい彼らの好みを熟知」しているので、中国の変化を常に観察しているとのことである。「第 3 期、4 期の建設が完了し、新たな商品を提供できれば、トップの座が揺らぐことはないでしょう」と、自信を語っている。GEG は日本における IR に非常に興味を持ち、東京に事務所を構えている。GEG には負債がなく、手元現金は 5,650 億円あり、日本での十分な投資能力があることを強みとしている¹⁷⁾。

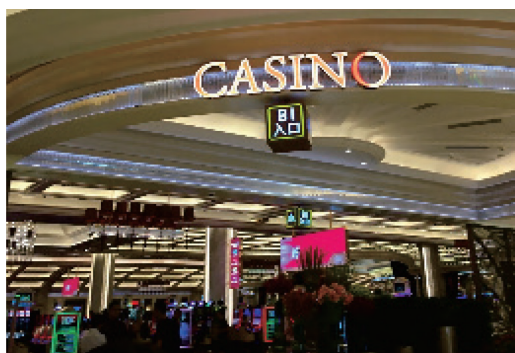


写真 2 カジノ入り口（学生撮影）

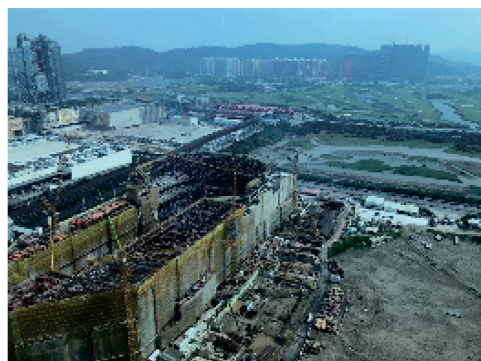


写真 3 第 3 期アリーナ、展示場建設現場（筆者撮影）

2.3.3 視察してわかったこと

ギャラクシー・マカオは想像以上の規模の大きさと豪華さであったが、カジノ以外の見学であり、賭博場の雰囲気が感じられず、ファーストフード店、フードコートや屋台などが揃う大型ショッピングモール兼大型ホテル群を視察した感があった。また数多くのプールで子どもも大人も楽しむ亜熱帯の高級ビーチリゾートにいるような雰囲気でもあった。娯楽施設、商業施設、飲食店が並び一つの街ができており、統合型リゾートという名にふさわしくファミリー層や若い世代にも訪れやすいリゾート空間であった。

ホテルはコンセプトや雰囲気が異なり選択肢も豊富で、様々な客層が利用できそうであった。世界的ブランドのホテルだけでなく、日系やタイ系のホテルも揃え、訪問客の多様な好みや国籍を意識した品揃えとなっている。

客層は中国本土から 70%とのことであったが、視察の際も中国系の客が大半であり、国際的 IR という印象は薄かった。この点はマカオ全体に言えることであるが、欧米豪から距離的に遠いアジアかつアジアの中でもシンガポールなどと競合する中で、いかに欧米豪からの旅行者を誘致するかという点において、規模以外の特徴が必要ではなかろうか。

日本に導入される IR に関連して、大きな経済効果に必ずつながると IR 導入に興味を持った学生がいた一方で、日本でこれだけの施設を作ってうまくいくのか、日本でこの規模の IR に対抗できる施設ができるのか疑問だとする学生もいた。



3. 研修の成果

3.1 IR の多様性

本研修では世界一の規模の IR であるギャラクシー・マカオを視察した。そこでは一大エンターテインメント施設として、幅広い客層をターゲットに多様な施設を整備しており、カジノは施設の 3%程度に抑えるという IR のコンセプト通り、カジノ色を極力薄めるよう工夫をしているのが窺え、「統合型複合施設」であることが確認できた。また、シンガポールのマリーナ・ベイ・サンズやリゾート・ワールド・セントーサも同様であるが、IR の多様性というコアコンセプトはどこも変わらないということを、確認できた。数年後には日本に導入される IR の一つの形をギャラクシー・マカオは示していると言えよう。

3.2 世界最長の香港マカオ珠海大橋

中国政府は香港・マカオ・広東省 9 市を一大経済圏とする「大湾区（ビッグベイエリア）」構想を進めており、3 つの巨大プロジェクトのうち、全長 55km の世界最長の香港マカオ珠海大橋が 2018 年 10 月に開通、香港と深圳、中国本土を結ぶ初的高速鉄道である広深港高速鉄路が 2018 年 9 月に開業、香港空港第 3 滑走路が 2024 年完成を目指して建設中である。大湾区構想は人口 6,000 万人超の「巨大な経済特区」を形成するもので、GDP は 174 兆円、中国全体の 13%を占める¹⁸⁾。「一帯一路」構想とともに中国の重要な国家戦略であるが、インフラの整備によりヒト、モノ、カネ、情報の動きが更に活発になると期待されている。本研修では、香港=マカオ間の往復で香港マカオ珠海大橋を利用したが、中国が関わるプロジェクトのスケールの大きさを実感することができた。

大橋が開通するまでは、香港マカオ間の往来は 24 時間運航の高速船で所要時間 60 分であった。高速船は波の関係で激しく揺れることがあり、快適な乗り物とは言えない。橋開通後も高速船は運航しており、橋は連絡バス及び一部自家用車での往来となっている。自家用車は香港、マカオ、珠海（中国）を走れる許可証を取得する必要があるが、高額かつ交通量をコントロールするため発給

数が制限されている。このため、橋の交通量は片側 3 車線の自動車専用道路にもかかわらず非常に少なく、渋滞もなかった。



写真 4 香港マカオ珠海大橋（学生撮影）

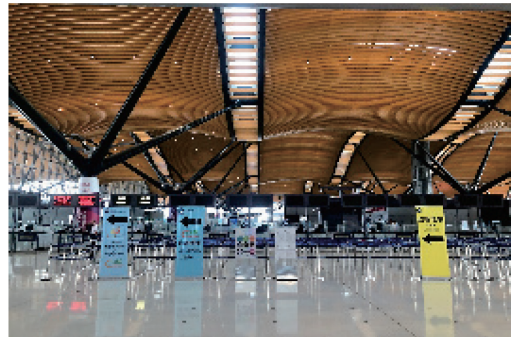


写真 5 香港側バスターミナルビル（筆者撮影）

3.3 香港＝マカオ間連絡バス

香港マカオ珠海大橋を使う連絡バスは 5 分から 10 分おきに出ており、多くの移動者が利用している。香港市内各地からは、市内バスに乗り約 30 分で香港国際空港近くの人工島に作られたバスターミナルに行く。バスターミナル自体が羽田空港国際線ビル程度の大きなターミナルであるが、航空機に搭乗するのと同じ要領で、バス券の購入、出国（出境）検査、保安検査、バス乗車となる。ターミナル内は閑散としているが、歩行距離が長い。約 40 分でマカオバスターミナル（珠澳口岸人工島）に到着する。

マカオバスターミナルも巨大な建物でこちらも歩行距離が長い。入国（入境）検査を受け、そこから市内バスやタクシーでマカオ市街へ向かうが、結局、船移動と移動時間に大きな差はない。橋での移動は船の揺れや欠航の恐れがないメリットはあるが、出入国検査を香港側かマカオ側一か所で済ませるなど、もっと時間を短縮する方法がないものであろうか。また許可証の規制を緩め、香港・マカオ両地で通行できる自動車数を増やし、乗り換えなしで相互に往来ができるようにすべきであろう。巨大プロジェクトではあるが、利用者の利便性を考え、コンパクトな施設で手続きに関わる時間や移動距離を短くする工夫が必要である。

3.4 教育効果について

帰国後学生が提出したレポートの中から、学生の視点で IR がどのように映ったか確認しておきたい。IR 施設全体については、想定外の規模と豪華さであり、日本だけでなく世界では様々なインバウンド誘致が繰り広げられていることは、海外に出ないとわからないとの反応であった。客層については、カジノ＝富裕層＝男性中心ではなく、ファミリー層や若い世代を意識した店舗構成やイベント構成になっていることがわかった。

日本での IR 導入は経済効果があるので積極的に実施すべきだという推進派の学生と、日本でこれだけの施設を作ってもうまくいくのであろうかという懐疑派の学生が存在した。実際に IR を見た上での反応の違いが興味深い。また、マカオの巨大 IR を視察した上で、日本の IR は規模を追うのではなく日本ならではの特徴のある IR でなければ、アジアにおける IR 競争に勝ち残れない、との指摘もあった。

学生にとって、観光学部の講義で学んだ IR について、視察を通じて規模感や施設構成、客層を確認ができ、今後の日本での展開について考える上での生きた知識となった点は有意義であった。更に、学生がアジアの成長スピードとスケールを実感したこと、観光における世界の動向や世界で発展する観光産業の重要性を認識したこと、そして、英語の説明を聞き質問も行っていた学生にとって、今後とも世界と関わっていく上で英語コミュニケーションの必要性和重要性を体感したことも成果と言えるであろう。

4. まとめ

今回の海外研修は、ANA 香港支店・香港空港所、キャセイ航空貨物、ギャラクシー・マカオの協力を得て、充実した研修となった。当初の狙い通り香港ではハブ施設を見学し、マカオでは IR 施設を視察し、世界最大規模や、最先端の施設に触れたことは日本ではできない経験の数々であり、学生にとって初めての世界に多く近づけたのではないだろうか。また香港の混乱に際し緊張して臨み、同じ一国二制度のマカオではデモなどが全くなく混乱の兆しもない様子を見て、この隣接する 2 地域のギャップを体感した。

筆者にとってもマカオは約 10 年ぶりの訪問であった。マカオ半島の旧市街地区の変化は短時間の滞在ではあまり感じる事がなかった。一方コタイ地区と言われる大規模開発された地区は拡張ラッシュの様相を呈していた。IR にとってカジノに隣接したホテルとショッピング街だけでは競争力や訪問客誘致力の点で課題があり、大型展示場や国際会議施設を急ピッチで建築中であったことが印象に残った。同時に日本に導入される IR にとって、いかに日本ならではの特徴を持った IR としていくのが重要な課題であると確認できた研修であった。

註

- 1) 在香港日本総領事館 HP
- 2) 上原和久 (2018)
- 3) 週刊東洋経済 (2018)
- 4) 在香港日本総領事館 HP
- 5) 在香港日本総領事館 HP
- 6) 週刊東洋経済
- 7) 週刊東洋経済
- 8) 中條辰哉 (2007)『日本カジノ戦略』 新潮社
- 9) ハイランド・ジェイソン (2019)『IR で日本が変わる』 角川新書 KADOKAWA
- 10) 渋谷和宏 (2019)『「IR」はニッポンを救う！』 マガジンハウス
- 11) 日本の IR 実施法（特定複合観光施設区域整備法）においてもカジノ施設の延床面積は IR 施設全体の 3%以下に制限されている。
- 12) ギャラクシー・マカオ HP
- 13) ギャラクシー・エンターテインメント・グループ広報室 説明資料より
- 14) ギャラクシー・マカオ HP
- 15) Travel vision (2019)
- 16) ギャラクシー・マカオ HP

橋本 佳典

17) 週刊東洋経済

18) 読売新聞 (2017)

引用文献

橋本佳典 (2018) 「ゼミ研修 深圳視察報告」 『東海大学紀要 観光学部』第9号 39-52 頁

ハイランド・ジェイソン (2019) 『IR で日本が変わる』角川新書 KADOKAWA

石井至 (2015) 『世界の IR』石井兄弟社

岩屋毅 (2016) 『「カジノ法」の真意』 KADOKAWA

JNTO (2019) 「JNTO ニュースフラッシュ」 『国際観光情報』2019 年 3 月号 25-27 頁

中條辰哉 (2007) 『日本カジノ戦略』 新潮社

渋谷和宏 (2019) 『「IR」はニッポンを救う！』 マガジンハウス

週刊東洋経済 (2018) 「深層レポート 日本版 IR はマカオから何を学ぶか」 2018 年 12 月 8 日号 64-67 頁 東洋経済新報社

Travel vision (2019) 「マカオに大型会議施設、ギャラクシーが建設へ、1.6 万人収容のアリーナも」 2019 年 10 月 24 日 エフネス トラベルビジョン事業部 <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=86912>

上原和久 (2018) 「アジア便り vol.122 香港」 『りゅうぎん調査』2018 年 8 月号 13-18 頁 りゅうぎん総合研究所

読売新聞 (2017) 「香港返還 20 年 国策経済圏の一翼に」 2017 年 7 月 4 日 東京朝刊 7 頁 読売新聞社
在香港日本総領事館 HP

ギャラクシー・マカオ HP